

東淀川区最高齢が語る日中戦争



二村良介さん（103）明治 44（1911）年 名古屋生まれ。小学 6 年生まで名古屋で暮らし、その後大阪へ。福島区にあった肌着の製造工場で働いていたが、日中戦争で朝鮮半島へ出兵した経験を持つ。東淀川区最高齢で現在、東淀川区内の介護老人福祉施設で暮らす。最高齢表彰の際に、区長に戦争体験を話したのがきっかけで今回のインタビューが実現した。

昭和 12（1937）年 8 月 1 日、大阪にあった第四師団の輜重兵（しちょうへい・兵站を担当する日本陸軍の後方支援兵科）の要員として招集されました（当時 24 才）。大阪港から貨物船の一番底に 200 頭の馬、その上に弾薬や食料を積み込んで朝鮮の釜山に上陸したんです。そこから平城へ向かって歩きました。

輜重兵は歩兵の後ろからついていって、弾薬やら食料なんかを運ぶのが仕事だったんです。「お前は足が長いから馬に乗れ」って言われて、馬に乗って編成しながら移動しました。昔は畑仕事を馬にさせてたんです、そんな馬を東北の方から連れて来て、朝鮮に連れて行ってました。むこうは道といっても、畑の間の溝みたいなものでした。当時は雨季だったので地面はどろどろで進むのに苦労しました。その時にちょうど天津の日本租界で若い日本兵がたくさん殺されて、その応援で天津にも行くことになったんです。

⑩二村良介さん

そこで戦闘になるんですが、中国は女性の兵隊も多くてね。向こうから機関銃持って襲ってくるんです。中国兵は蒋介石やなんかに訓練されているから強いですわ。それと戦ったんですが、仲間の兵隊もようさんやられました。撤退するのに死傷した兵隊を連れて帰ろうと思うのですが、腕のないものもあつたし、首のない死体も多くて。ズボンのバンド（バックル）の裏に兵隊の番号をつけていたから分かったんです。

隊列は夜中に移動するんですが、空に輝いている北斗七星を目印に南へ南へとすすみ、無事釜山にたどり着き内地に戻ることができました。そこから再編成してもう一度天津を目指そうと思ったところに、大東亜戦争が起きました。船はみんな南方作戦で出払っていて、以来僕は出兵する機会はなかったのです。

=====
今回のインタビューには、良介さんの四男のお嫁さん（緑さん）とお孫さん（愛さん）に立ち会っていただいた。「8月になるとよく戦争の話聞かせてくれます。いつもだいたい今回の話と一緒の話ですよ」とのこと。約1時間の中でも何度も繰り返され、70年以上経っても鮮明な記憶のようである。

さらに「写真好きの兵隊の仲間がフィルムを隠して持って帰ってきた」という当時の写真をご提供いただいた。

